ＪＲ東海労ニュース

９条堅持！

山岡けんじ

№１８６０
２０１３年７月１８日
ＪＲ東海労働組合

自衛隊の海兵隊機能化反対！侵略戦争の二の舞を踏む気か！

マスコミ報道によると、防衛省は年内に『新防衛大綱』の中間報告に「自衛隊の海兵隊機能の充実」を図ると明記する方針を固めることを伝えました。記事によると、対中国において離島防衛重視の方策を打ち出す必要があるとしています。

ところで「（米軍）海兵隊」というのは、切り込み部隊です。侵略を防ぐ部隊ではなく、他国に対し戦闘を真っ先に実行する部隊です。自衛隊がなぜ、他国に武力で切り込まなければならないでしょうか。日本国憲法第９条をないがしろにする提案です。まさか、中国との戦争を前提で法制化しようとしているのでしょうか？断じて許してはなりません。

昨今、戦争を前提に政治を進めようとしている連中がいますが、国民が望んでいることは、各国との友好関係を継続した平和な世の中なのです。

ＪＲ東海労は、自衛隊の海兵隊機能は断固反対です。

自衛隊に海兵隊機能

新大綱中間報告　離島防衛を重視

防衛省は、年内に策定する長期的な防衛力整備の指針「新防衛大綱」の中間報告に「海兵隊的機能の充実」を図ると明記する方針を固めた。同省関係者が14日明らかにした。沖縄県・尖閣諸島周辺で

新防衛大綱の中間報告ポイント

- 離島防衛強化へ海兵隊的機能を充実
- 新たに陸海空自衛隊を統合した部隊を編成し、米軍との合同演習を増やす
- 米軍新型輸送機オスプレイの自衛隊への導入や、水陸両用車の装備拡充を検討
- 弾道ミサイル防衛に敵基地攻撃能力の保持について検討
- 戦時想定のロボット技術を、南海トラフ地震や首都直下地震などの災害対応に転用

の中国との緊張関係を反映し、離島防衛重視の方策を打ち出す必要があると判断した。中間報告は参院選後の7月中に公表し、安倍晋三首相に提出される見通しだ。

海兵隊は米軍では陸海空軍と並ぶ4軍の一つで、主として敵の支配する地域に空海路で乗り込む先遣隊の役割を担う。韓国軍にも置かれているが、自衛隊にはない。

同じ関係者は海兵隊的機能を充実させても「専守防衛を逸脱することはない」と強調している。

防衛省は江渡聡徳防衛副大臣を7月末に米国に派遣し、日米防衛協力の指針（ガイドライン）の見直し作業と併せ、カーター米国防副長官と、海兵隊的機能の充実を含めた新大綱の検討状況を協議する。「尖閣有事」を想定したとも受け取れる日米の動きに中国が反発する可能性もある。

現在、離島防衛の役割は陸上自衛隊の西部方面普通科連隊（長崎県、約670人）に担わせている。中間報告は、新たに陸海空の自衛隊を統合した形の部隊を編成し増員した上で、米軍との合同演習を増やして離島奪還の能力強化を目指す。

具体的には、他国軍に日本領域の離島を奪われたり、奪われそうになったりした事態を想定。滑走路のない場所で離着陸できる新型輸送機オスプレイの自衛隊への導入や水陸両用車の装備拡充などを検討項目に掲げる。

政府は、防衛省の中間報告を受け、新大綱策定作業を加速させる。首相官邸を中心に検討を進め、与党内の議論を踏まえて12月に閣議決定する。

中間報告は他に、弾道ミサイルに対する抑止策として敵国の基地を攻撃する能力の保持について正式に検討していくと表明する。

7月15日『静岡新聞』

海兵隊は宣戦布告部隊！自衛隊には必要なし！